



◆城下町都留を象徴する「大イイベント」
 八朔祭は「おほつき」と呼ばれ、市を上げての祭りです。四日市場地区の生おぼ出神社を氏神（守り神）とする、四日市場、下天神町、早馬町、新町、仲町、下町、高尾町、姥沢の地域の人々が参加しています。例祭としてかつては五穀豊穡を祈った祭りでした。神事のほかに舞、神楽、神輿、屋台、大名行列が加わりました。見るだけの祭りではなく、市民自ら参加できる祭りとなり、広く知られるようになりました。

町へ贈り、足軽から行列の手ほどきを受けた農民が、藩政に対する感謝の気持ちを十萬石の行列に仕立て上げたものと言われています。

◆豪華絢爛「八朔祭屋台飾り幕」
 大名行列とともに有名な八朔祭屋台飾り幕は、江戸時代の終りごろ、文化・文政期（1804～1829年）に作られたと言われています。飾り幕には、外国産の緋羅紗ひらしややビロード、金銀の糸など高価な材料が多く使われています。

また、刺繍などの技術は、現在でも再現できないほど優れており、江戸の一流職人たちによるものと考えられています。飾り幕の下絵を描いたのは、葛飾北斎や島文斎藤原栄之、柳文朝やなぎふみちなど江戸時代を代表する浮世絵師の手によるものです。

